

I E A石油市場レポートの概要 (2015年4月15日公表)

毎月一度 I E A (国際エネルギー機関) が公表する石油市場レポートについて、2015年4月15日に公表されたレポートの概要以下の通り。

1. 3月の石油の将来価格は緩和。この原因は、中東のOPEC諸国からの供給急増や、欧州やアジアの精製業者のメンテナンス準備や米国の原油在庫の急増。レポート作成時、ICEブレント価格は約58.25ドル/バレルで取引されており、昨年6月のピークより約50%下落。WTIは約52.35ドル/バレル。
2. 2015年の世界の石油需要予測は、9万バレル/日引き上げられ、9360万バレル/日となり、110万バレル/日の伸び。2015年第1四半期の低気温や徐々に回復している世界経済により、2014年の70万バレル/日増に続く顕著な伸び。
3. 世界の石油供給は、3月に前月比で100万バレル/日増加し、9520万バレル/日と見込まれる。これは、OPEC諸国の生産が最近約4年間で最も大きい月間の伸びを記録したため。350万バレル/日の大幅な年間の伸びは、OPEC諸国と非OPEC諸国のどちらにも起因する。
4. OPEC原油生産は、3月に890万バレル急上昇し、3120万バレル/日へ。これは、急激なサウジアラビア、イラク及びリビアの供給拡大による。2015年後半のOPEC石油に対する需要(Call)は若干上方修正され、3035万バレル/日となり、OPECの公式な生産目標を上回る。しかしながら、先月のレポートと比べて2015年では2950万バレル/日と変わらない。
5. OECD諸国の産業在庫は、原油在庫が3640万バレル積みあがっているにもかかわらず、2月に170万バレル/日減少。暫定的なデータによれば、OECD諸国の在庫は、米国の在庫が継続的に積み上がっていることや精製品が季節的要因とは反する動きをしていることなどから、3月に季節的要因とは逆となる2920万バレル/日上昇。
6. 世界の原油精製需要は、2015年第2四半期には、2015年第1四半期の7800万バレル/日から、7730万バレル/日まで、季節的要因から減少することが見込まれる。大西洋方面の精製業者のメンテナンスは2015年第1四半期にほぼ終了したが、アジアの精製業者のメンテナンスは、2015年第2四半期に増加するため、ピークで5月の250万バレル/日の精製設備のオフラインにまで至るだろう。